

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3091500029		
法人名	有限会社メディカルサービス有田		
事業所名(ユニット名)	グループホームゆりのき苑やまち		
所在地	有田市山地44		
自己評価作成日	令和4年8月10日	評価結果市町村受理日	令和4年10月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp">http://www.kaigokensaku.jp</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 和歌山県社会福祉協議会		
所在地	和歌山県和歌山市手平二丁目1-2		
訪問調査日	令和4年9月16日		

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

その人らしさを尊重し、一人ひとりの張り合いや楽しみを取り入れながら、自立した生活が支援ができるよう取り組んでいる。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者は危険が伴う場合以外は自由に行動することができ、自分の力で役割を果たしているという有用感から得られる喜びを味わいながら、みかんの里での生活を楽しんでいる。事業所の全ての職員は生活の各場面で、利用者一人ひとりの尊厳は守られているかを自らに又職員間で問いかけながらの支援である。健康管理や医療面では、かかりつけ医との連携が密であり、看護師による健康チェックも定期に行われていることから、利用者・家族等に不安はない。地域との繋がりにについては、大幅に制限された状態にあるが、自治会とのパイプは堅持されている。コロナ禍の動向を注視しながら、早い時期での活動の再開を期待している。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	独自の理念を掲げ、管理者と職員は、理念を理解し、本人が本人らしく生活が出来るよう寄り添い支援している。	事業所開設時に代表者と職員が意見を出し合い、代表者が取りまとめたのが現在の理念である。リビングには理念を掲げ、利用者・家族等に示すと共に、職員自らの振り返りにも役立っており、浸透度は高い。代表者と職員はその理念を実践の中核とし、共有しながら支援を続けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	自治会に所属し、地域の催し物に参加をすることが出来ていたが、コロナ禍のため、祭り等の行事は実施がされていない。年2回の清掃活動は参加することが出来ている。	地域の情報は自治会からの電話や回覧板で得ているが、催し等は自粛の状況にある。園児や小学生との交流も中断しているが専門学校(介護科)の実習生は感染症対策をしたうえで受け入れられている。コロナ禍の鎮静化を待つばかりである。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍前は、認知症カフェを開催したりしていた。また、実習生の受け入れを今、現在も行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月毎に認知症カフェを開催し、その際、入所者・家族・市役所・自治会長に参加してもらい苑の運営状況及び意見交換を行いサービスの向上に努めている。	運営推進会議の代替として、文書で事業所の状況報告を各方面に行っているが、どうしても頻度が低くなり勝ちであり、意見の集約も困難である。外部評価には全ての職員で取り組み、結果を開示している。	項目別に問い合わせの文章をつくり、答え易くする等の工夫をしながら、運営推進会議の開催に合わせた2か月毎の伝達実施にむけた取り組みに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には、市役所の人にも参加してもらっているため、その際に相談やアドバイスをもらい、信頼関係を築いている。	市役所担当課及び包括支援センターとは日頃から、文書送付や電話にて入居の状況やサービスへの取り組み等を積極的に伝え、助言を得る等の行き来があり、今まで築いてきた協力関係の維持に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員研修に参加している。日中はドアを開放し自由な環境を提供している。また、身体拘束のみならず、言葉での抑制に気を付けて対応し、拘束をしないケアに努めている。	全ての職員は事業所内外での研修に参加し、拘束となる具体的な行為を正しく理解している。言葉での抑制には特に注意を払い、自己及び相互の確認を徹底している。日中は施錠せず出入りは自由である為外に出ようとする利用者には、本人が納得して帰るまで職員が同行している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修を通じて虐待への問題意識を再確認し、虐待が見過ごされることがないように、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人制度を利用している利用者もおり、学ぶ機会や理解に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、納得の得られるような説明を行い、また、入所後も随時、質問を受け付けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情や相談の受付の担当を設け、スムーズに対応が出来る体制を整えている。現在、面会は出来ていないが、以前は面会時、家族の表情を観察しこちらから声掛けを行い、また、家族が相談しやすい雰囲気作りを心がけている。	利用者・家族等の意見を反映して、要望があればガラス越しでの面会を行うことができる。利用者・家族等の意見・要望は主として電話や文書で聞き取っている。外部者への意見・要望の表明については、契約時に説明すると共に、重要事項説明書に明示することで周知を図っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見を出しやすい環境を作り、日常的にも意見交換を行い、サービスの向上に反映させている。	職員は随時運営に関する意見・提案を代表者や管理者に出すことができ、現に利用者の処遇等につき活発に意見・提案が出され、検討を経て実行されている。また職員の腰痛を防ぐ為提案をもとに、移乗サポートロボットの購入が実現した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	全職員に対し資格取得を促し、サービスの質の向上を図っている。就業環境は個々の希望条件にあうよう対応している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に研修に参加し、ケアの質の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者との交流を図りサービスの質の向上を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の本人の状態の把握に努め、困っていること等に耳を傾け、本人が安心できる関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に家族の要望や困っていることに耳を傾け、信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族と相談し、どのような支援が必要であるか見極め対応するようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自宅に居るような環境を提供し、日々の暮らしの中で喜怒哀楽を共に表現できる関係を心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の絆を大切にし家族の想いを受け止め、本人を支えていく関係作りを目指している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	生活歴を把握し、馴染みの関係が途切れないよう、本人と家族の絆を大切にしている。	以前は馴染みの場所に出かけたり、知人や家族等と夜間に面会することもできたが、現在は制限せざるを得なくなっている。電話や手紙での交流が主となっているが、可能な手段を活用しながらの関係継続の支援を続けている。月1回送付するゆりのぎ通信の果たす役割も大きい。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、交流が図りやすいよう会話の間に入ったり、話題の提供をしたり、支え合えるような関係作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も必要に応じた助言を行い、関係を大切にしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常的に声掛けを行い、その時々の本人の気持ちを聞き、希望に添えるようにしている。	利用者の日々の言動や表情、働きかけに対する反応等を観察することで、思いや意向を把握しているが、困難な場合もある。職員による思い込みや決めつけが生じないように、日常生活の各場面での介護経過を記録に残し、職員間で検討を重ねながら把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活歴の把握を行い、本人に合った暮らしの提供を行っていく。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の言動等、記録し職員間で情報の共有をし現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にモニタリングを行い、本人の状態に合わせたケアが行えるようにスタッフ全員が共有出来るよう介護計画を作成している。	利用者・家族等との話し合い及び職員間での検討の中から抽出した課題を段階を踏んで解決することを目差す介護計画の作成であり、かかりつけ医の意見も反映させている。モニタリングを通して新たな課題を確認した場合には、迅速に見直しを行う等現状に即した介護計画の作成である。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	SOAP書式を活用し、利用者の心身の状態について記録しスタッフ間で情報の共有を行い、それについての意見交換を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況変化に合わせた対応を、他職種の協力を得ながら柔軟に対応出来るよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍前は、地域資源を活用し、これまでの生活と変わりなく生活出来るよう取り組んでいた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族が希望する医療機関を受診し、かかりつけ医とは常に情報交換を行い、適切な医療を受けられるよう支援している。	かかりつけ医は本人及び家族が選んでおり、提携医の往診は2週に1回である。他の医療機関への通院は職員が同行し、家族等に報告をしている。かかりつけ医への情報提供は口頭又は書面による。隣接するデイサービス事業所の看護師による週1回の健康チェックの実施があり、必要時にはかかりつけ医への受診に繋げることができる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回、看護師に健康チェックを行ってもらい利用者に変化があれば相談を行い、かかりつけ医等、適切な医療や看護を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は情報提供を行い、早期退院に向けて病院、本人、家族と連絡を取り合い、連携を深める関係作りを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人、家族の意向を優先し、状態変化がみられた時には随時意思確認を行っている。また、医師を含めたカンファレンスを行い、方針を確認し、チームで支援に取り組んでいる。また、カンファレンスの内容は記録し、職員で情報の共有が出来るようにしている。	終末期について、本人・家族等が看取りを希望した場合は、かかりつけ医又は連携医療機関と共にチームで支援する方針である。職員用のマニュアルも備え、家族等の宿泊も可能な体制にあるが、ここ数年間は看取りの実施はない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は救急救命講習を受講し、緊急時対応が出来るよう備えている。また、緊急時のマニュアルを作成し、提示すると共に連絡体制が整えられている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行い、消防、近隣住民の指導や協力を得ながら利用者の避難方法を確認している。	年2回の避難訓練は、マニュアルに則り昼間及び夜間を想定し、利用者と職員が共に参加しての実施である。数年前に苑周辺が浸水する事態となったが、地域への排水ポンプの設置により以後の浸水はない。水・食料等を備蓄し、期限の確認を必ず行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、本人の思いを大切に、誇りやプライバシーを損ねないよう声掛けや対応を行っている。	利用者の要望や受け入れの良さから呼称は名前を用いることが多く、その場合は家族等の了解を得ている。利用者の個人情報については、ファイル類を目隠しのされた場所に保管する等責任ある取扱いと管理を徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で本人の思いや希望を自由に表すことが出来、自己決定出来る環境作りを心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活スタイルやペースを大切にし、職員側のペースにならないよう、本人の希望に添った暮らしを提供している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみの支援を心掛け、馴染みの理美容の支援を行っている。また、衣類の補充等、必要があれば、家族に連絡し、依頼している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の力に応じた食事の準備や片付けを行ってもらっている。食事中は音楽を流し、リラックスしながら楽しく、ゆったりとした食事時間を過ごせるよう工夫を行っている。	メニューは利用者と相談しながら好みを活かして作り、食事にかかる一連の作業に利用者はそれぞれ持てる力を発揮している。利用者と職員が同じテーブルを囲んでの食事風景であり、自家農園からの収穫物が食卓にのぼった際の盛り上がりは格別である。行事に合わせて店屋物を購入したり、移動パン屋で好みのパンを買ったりと利用者一人ひとりが食事を大いに楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量は表にて把握している。水分量は季節に応じた飲用を提供している。一人ひとりの状態や力、習慣に応じた形態で提供を行い、栄養摂取が出来るよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの力に応じた口腔ケアの介助を行い、食後にはお茶の飲用を促している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、排泄表を活用しながら、トイレでの排泄が行えるよう支援している。	利用者一人ひとりの力に合わせて紙パンツ・パッド・ポータブルトイレ等を使用しているが、あくまでもトイレでの排泄を目差しての支援であり、使用の根拠を明確にし、常に見直しを視野に入れている。利用者の力はおおむね維持されているが、自立した利用者の姿を励みに、職員はトイレでの排泄、更には排泄の自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食物の工夫を行い、便秘時には腹部のホットパックや水分摂取を取り入れている。また、かかりつけ医と相談を行い、便秘が続かないよう、服薬調整を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ほぼ各日にての入浴支援が行えており、事前の声掛けや、時間帯の確認など、個々に添った支援を行っている。	季節湯の実施は入浴の楽しさを倍加させる効果がある。入浴を拒み勝ちな利用者については「構え」が生じないようにさりげなく促す等の工夫で実現に繋げている。普通浴が困難な利用者については併設する事業所の機械浴を利用することができるが、現在利用はない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣やその日の体調に合わせた休息や午睡を取り入れている。また、安眠出来るよう、エアコンの調整など、環境を整えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの服薬状況をファイル化し、職員間で共有し、理解をしている。また、かかりつけ医と連携し、副作用についての助言、指示を仰いでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの得意分野を活かし、張り合いや喜び、自信に繋げることが出来るよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍により遠出は行えていないが、苑のドアや窓は開放され、感染対策を行いつつ、苑周辺の散歩は希望者があれば支援を行っている。	屋外に出ることは利用者・職員双方にとってストレスの発散や五感刺激を得る貴重な機会であることから、苑周辺の散歩やドライブに出かけている。テラスでの洗濯物干しや日光浴、自家菜園への水やり等は日常茶飯事である。コロナ禍が治まり、家族等も参加しての花見等に出かけられる日を利用者は心待ちしている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望があれば家族とも相談を行い、お金の所持を行っている。また、必要物品についても本人の要望を取り入れ購入を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人と家族の繋がりを大切にし、何時でも連絡が出来るよう声掛けを行っている。本人と家族との会話が円滑に行えるようフォローも行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	陽当たりの良い場所にリビングを設け、外の景色や洗濯物など、自宅と変わらないような環境を提供し、施設特有の匂いがしないよう、換気にも注意し、居心地の良い空間作りを行っている。	窓やテラスから隣接する農園のみかんの木を眺めながら、利用者は季節の移ろいを直に感じることができる。リビングには程良くソファやテーブルが配置され、空気清浄器も備えられており、利用者は思い思いにテレビを見たり、新聞や雑誌を読んだりゆったり過ごしている。洗濯物たたみに勤しむ利用者の姿も見られる。ほとんどの利用者が日中はリビングで過ごしており、居心地の良さを物語っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間では一人ひとりが居心地良く過ごせるよう工夫をし、利用者間同士の交流に目を配り、距離感も大切にしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人の使い慣れた物や馴染みの物を本人と相談を行いながら配置を決め、居心地良く過ごせるようにしている。	以前は仏壇の持ち込みもあり、制限はない。利用者の希望があれば畳を敷くことも可能であり、現在も利用がある。居室は内側からも施錠ができ、職員が居室を訪れる際にはノックをして声をかける等プライバシーの保護にも十分な配慮がなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリー化になっており、一人ひとりの能力に合わせ、出来ないところを支援するというスタイルで、本人の自立を損ねないような生活支援を行っている。		